

平成 26 年（2014 年） 度  
金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

小論文

C 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は5枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。

## 平成 26 年度（2014 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	小 論 文
------	-------

### 問題

出典：北川達夫、平田オリザ『ニッポンには対話がない』（2008年・三省堂）「移民社会への秒読み」による。

問1 （下線部 a） について、そのような結果を生むと考えられる理由を、200字以内で説明しなさい。

問2 （下線部 b） において、北川氏は、移民を受け入れるという方向と異なる、1つの留保的な可能性も示唆している。あなたは、将来において、わが国が、（下線部 b） のような選択肢を選ぶべきだと考えるか否か。なぜそう考えるのかという理由を具体的に示しつつ、あなたの意見を400字以内で述べなさい。

問3 この対談の中で、平田、北川の両氏は、日本が将来的には「移民社会」になるであろうことを前提として、これからの教育についてどうあるべきだ、と主張しているのか。両氏の主張内容全体を500字以内でまとめなさい。

問4 将来、日本が「移民社会」になると仮定して、私たちは、どのような制度を整備すべきか。あなたの意見を900字以内で自由に述べなさい（ただし、上記の対談中で主張されている、わが国の子どもの教育という問題は除く）。